

「総合演習」授業評価報告書

教育学講座・山口 充

1. 受講者・授業担当者

【受講者】学校教育基礎コース教育学専修の
3 回生。受講者数，12 名。

【授業担当者】山口 充，伴野昌弘

2. 本年度の「総合演習」で試みた改善。

昨年度の「総合演習」の反省を踏まえ、本年度
は以下の改善を試みた。

総合演習の目的と到達目標を受講生に十分
説明し、受講生が自覚的に取り組めるように
する。

中間発表の機会を設け、グループの相互批判
を通して、探究活動の進展を図る。

担当者が適切に指導・助言し、受講者の探究
活動の発展と深化を図る。

現代的諸課題にかかわる内容を児童生徒に
指導する力量を受講生に身につけさせる。

受講生が自らの学習を確認するため、『総合
演習報告書』を作成する。

3. 授業の目的・到達目標・内容

【授業の目的】

総合演習の目的を次のように設定した。

「現代社会における人類共通の課題や、わが国
及び地域社会の固有な課題（人間尊重，環境，異
文化理解，生命と福祉，高齢化・少子化，家庭や
社会の在り方，子育てと教育の在り方等）に対す
る視野を広め，現代的諸課題を解決するための資
質能力を獲得するとともに，こうした現代的課題
にかかわる内容を児童生徒に適切に指導できる
教員としての力量を形成することを目的とする。」

【到達目標】

上記の目的を達成するために，以下の三つの到
達目標を設定した。

現代社会が直面している複合的・横断的な諸
問題について視野を広げ，理解を深める。

研究企画力・情報収集力・研究総括力・発表
力・評価力・グループワーク力など，課題解
決に必要な資質能力を身につける。

現代的諸課題に関する内容を児童生徒に指
導するための方法や技能を学ぶ。

【授業の内容・展開】

授業は，学習者がグループで行う探求型の演習
形式を採用し，以下のように展開された。

第 1 回： 授業のオリエンテーションとグルー
プ編成。

第 2 回：グループ・テーマと探求方法の決定。

第 1 グループのテーマ：「県民性」

第 2 グループのテーマ：「子育てという名
の親育て」

第 3 回：「総合的な学習」に関する調べ学習。

探求活動に先立って，小・中学校における
「総合的な学習」の意義と現状，実践事例
等について調べ学習を行った。

第 4 回～6 回：データの収集方法の検討。

第 7 回：中間発表と質疑応答。

第 8 回～13 回：データ収集と分析・考察。

第 14 回：探求成果の発表と質疑応答。

第 15 回：『平成 19 年度総合演習報告書』の作
成と授業アセスメント。

4. 各グループの探求活動の概要

【第 1 グループ】

第 1 グループは、「すべての県に独自の『県民
性』を互いに認め合い，助け合い，共生していく
社会を構築したい」という問題意識から，「県民
性」をテーマに設定した。当初，全国データの収
集・分析を計画したが，軌道修正が余儀なくされ
た。最終的には，対象を四国四県に絞り，四国四
県の県民性に関する研究に取り組み，まとめと発
表に漕ぎ着けた。苦境から多くの教訓を学んだ。

【第 2 グループ】

第 2 グループは，「子育てを通して親も成長す
るのではないか」という仮説のもと，「子育てと
いう名の親育て - Master Children」というテ
ーマを設定し，アンケート調査に取り組んだ。質
問紙の作成は困難を極め，激論が交わされた。ま

た、寒い中で街頭アンケートを行ったが、思うようにアンケートが集まらず苦労した。しかし、メンバーにとっては貴重な経験となった。

5. 授業評価アンケートの結果

授業の最終回に、チェックリスト形式（5段階評定）と自由記述形式による合計9項目の授業評価アンケートを実施した。そのうち、問1から問3までは、「到達目標」に関する項目である。

【チェックリストの評価結果】

問1「現代社会が直面している複合的・横断的な問題について視野を広げ、理解を深める」ことができたか。（到達目標1）

平均値は3.5で、普通のやや上である。

問2「研究企画力・情報収集力・研究総括力・発表力・評価力・グループワーク力など、課題解決に必要な資質能力を身につける」ことができたか。（到達目標2）

平均値は3.5点で、普通のやや上である。

問3「現代的諸課題に関する内容を児童生徒に指導するための方法や技能を学ぶ」ことができたか。（到達目標3）

平均値は2.2で、厳しい評価である。

問4「あなたは、テーマ設定 - 情報収集 - 課題追及 - 研究総括と発表の一連の問題解決過程に積極的に取り組んだか。」

平均値は4.2で、まずまず良好である。

問5「この授業は、全体的に見て、あなたにとって有益だったか。」

平均値は4.4で、良好である。

問6から問9までは自由記述である。以下に、問6「この授業から学んだ点はなにか」、問9「授業者の指導に関して、よかった点、改善すべき点はなにか」についてのみ、受講生の多様な意見のなかから、そのごく一端を記す。

【この授業から学んだ点】

- ・探究活動では、目標の明確化、計画の策定、役割分担が大切であることを学んだ。
- ・各人の意見や思いを、妥協ではなく、一つのものにまとめていくことの大切さを学んだ。
- ・質問紙の作成やアンケート実施の難しさと、アンケート調査の奥深さを学んだ。
- ・総合的な学習が孕んでいる困難さを学んだ。教師として学びをコーディネートする難しさを感じる。

【担当者のよかった点、改善すべき点】

よかった点・評価できる点

- ・先生たちの介入は最小限で、授業運営を私たち

に任せてくれた。

- ・様々な場面での確かな助言があった。教員としてではなく、グループの一員として、一緒に考えていこうとするスタンスがよかった。

改善すべき点

- ・一つの班の人数が多いと思う。4人ぐらいが話し合いには丁度よいかと思う。
- ・総合演習の見本があればやりやすかった（今年度は、『報告書』を作成したので、後輩にとって役に立つと思う。）
- ・もう少し、研究方法や視点についてアドバイスがほしかった。私たちのやる気や意欲が薄れたときは、厳しく指導していただいて結構です。
- ・総合演習の学びの総括をもう少し丁寧にしてもらえると、自分の学びを見直し、実感できる。

6. 総括と課題

前記のように、授業担当者は、昨年度の反省を踏まえ、いくつかの改善を試みた。しかし、反省点と課題も多い。

総合演習の目的と到達目標を明確にして臨んだが、まだ不十分であった。とくに、三つの「到達目標」に関するアンケート結果は芳しくない。到達目標が抽象的すぎたかもしれない。目的及び目標を受講生にとってより具体的なものにする工夫が必要である。

とくに、到達目標の3・「現代的諸課題に関する内容を児童生徒に指導するための方法や技能を学ぶ」については、受講生の評価は厳しい。受講生はグループワークを通じて、探究・研究のプロセスとその困難さについては学んだが、児童生徒に教える自信を得るまでには至っていない。担当者は工夫して、「学ぶ立場」からの探究活動を「教える立場」からの探究活動に変換する作業を支援・指導しなければならない。

学ぶ立場からの探究活動については、担当者が意識的に助言と指導を行ったこともあり、二つのグループとも、それぞれの苦境を乗り越え、探究の総括と発表に漕ぎ着けることができた。

グループワークにおける個人の評価をどうするか、という困難な問題がある。メンバー個々の思いとグループのテーマとの間にズレがある場合、グループワークへのコミットメントの度合いに違いが起こる。グループ編成の工夫とともに、総合演習における評価が大きな研究課題である。

更に改善すべき点は多いが、受講生の声から窺えるように、受講者は今年度の総合演習において、自分の反省点、また担当者の側の反省点も含めて、多くのことを学んだことも確かである。